

都市計画マスタープラン策定に係る地区懇談会(船形地区)

— 第1回 懇談会要旨 —

1. 懇談会開催日時等

日時：平成20年1月25日(木) 19:00～20:30

場所：若潮ホール 会議室

市職：都市計画課3名

2. 懇談会次第

1) 開会

2) 都市計画課課長挨拶

3) 懇談テーマ、意見交換

①都市計画マスタープランとは

②館山市全体及び船形地区の都市計画の現状

③まちづくりに関するアンケート結果の概要報告

④質疑、意見交換

4) その他

5) 閉会

3. 参加者

54名

4. 船形地区から出された主な意見

○都市計画マスタープランへの要望

- ・ (仮称) 船形バイパスの早期実現
- ・ 都市マスへの位置付け

○地区の整備に関する要望

- ・ 港を活かし、賑わいを取り戻したい(将来道の駅)
- ・ 用途変更について、土地利用を誘導する施策及び十分な地元説明
- ・ 排水整備の早急な対策

5. 懇談会要旨

【資料説明】

①都市計画マスタープランとは

- ・ 都市計画マスタープランの役割や法的位置づけ等について説明。

②館山市全体及び船形地区の都市計画の現状

- ・ 市全域及び船形地区についての人口推移や土地利用現況等を説明。
- ・ 以下の事項等をテーマとして都市計画マスタープランを策定すると報告。
 - 都市計画道路の新設・廃止を含めた見直し
 - 用途地域の拡大や変更等の見直し

- 景観形成
- 都市公園の新設等を含めた見直し
- 中心市街地の空洞化

③まちづくりに関するアンケート結果の概要報告

- ・アンケートの結果より、以下の事項がまちづくりの方向性に挙げられると報告。
 - 誰もが住みやすい、安全・安心なまち
 - 自然や文化を活かした観光都市
 - 公園の整備

【質疑、意見交換】

以下、参加者から出た意見を“○”、事務局からの回答を“⇒”とする。

○県マスでの館山市の位置づけはどうなっているのか？

⇒H15 年度に作成した県マスでは、都市計画の目標として、区域全体としての、南房総における交通結節点、首都圏における海洋性リゾート地としての役割を担うための「都市づくりの基本理念」を4つ掲げ、地域毎の市街地像として、那古・船形地区については、那古船形駅周辺に近隣商業機能を拡充した地区中心商業拠点を配置するとともに、臨海部においては漁港機能の再活性化などを図り、館山湾の北部における海辺の交流拠点として整備を推進するものと位置づけている。

⇒県マスにおいては、今後の人口増加が見込まれないこと及び急激かつ無秩序な市街化の進行はそれほど見込まれない等の判断から、区域区分の線引きを実施しないこととしている。

○館山市としては、今後も「線引きをしない」との見解か？

⇒県マスを定める時に、県は市の意見を聞いて策定している。その際地区別の懇談会も開催し、皆さんの意見を聞いている。その結果概ね良しとして、線引きしないこととなった。県マスは上位計画であるし、H15 年度に策定したばかりである。現段階では、その方向に従っていくつもりである。

○船形地区の活性化には、港の利用と（仮称）船形バイパス整備の案がある。

船形バイパスの整備は治水の問題も解決できると考える。船形バイパスに関する現在の状況を説明してほしい。

○船形バイパスについては、区長会、コミュニティ委員会、市議会議員、漁業組合、商店街等の団体とも話し合い、三澤議員を先頭にして動いている。今回都市マスに位置づけてもらいたいと考えている。この道路ができれば、ふれあい市場のところに車を下ろすことができ、それにより船形が昔の賑わいを取り戻せるのではと考えている。

○近いうちに、皆に署名をお願いし、早期に実現できるよう市、県、国へ要望したいと思っている。また、道路ができれば、根岸と大塚の水害も解決できると思っている。みなさんもよろしくお願ひしたい。

○船形バイパスの整備について、県知事に伺った。新しい道路建設について、県知事も建築指導課クボタアキラ氏も“必要な道路は作る”との回答であった。

○秋山県議と安房整備センター小山所長に対して、1/23 商工会議所の建築部会の場で質問した。小山所長からは、“県議が進めたいとの道なので、安房整センターとしても積極的

に進んで行きたい”との意見も頂いた。安房整備センターからは“来年度の予算で測量をやる”との発言ももらっている。

○船形バイパスについては市議員のほぼ全員が賛同している。

⇒館山市としては、「観光立市」として様々な事業を展開している。

県が現在「多目的栈橋」を整備しており、また、北条海岸のビーチ利用促進モデル事業として、海浜事業を実施している。船形漁港の活用も重要と考えており、また館山市では国道 127 号で観光地へ運ぶのではなく、一旦海岸線へ下ろして、観光施設へ運ぶことが必要と皆が考えている。こうしたことから道路計画を進めていこうと考えている

○船形バイパスの整備は願うところであるが、単に通過交通を処理するだけの道路となつては困る。当地区に立ち寄ってもらおうということを考えることが必要である。県マスでも港の活性化を打出している。港の活性化については県の事業であるため市は直接関われないのかもしれないが市も応援して欲しい。補助金を出すとか。

市も具体的施策を提示してほしい。

○船形漁港は資源であり、これを活用する施策、例えば「道の駅」や船形漁港と多目的栈橋を連絡するクルージング、活魚の提供など、住民もアイデアを持っているので、是非船形バイパスの整備とともに、当地区の活性化を実現して欲しい。

○船形は港を中心に良い土地がある。「道の駅」などを作ってほしい。

○漁組も那古地区の石井連合町内会長も全面的に協力して漁港の活性化につなげていくとの回答ももらっている。

○館山市中の町内会からも応援いただいている。この道だけは何とか実現させて欲しい。

⇒この地域には「ふれあい市場」がある。また、最近では県営漁港内でも「ヨットハーバー」などの許可が出されているなど新たな動きを示している。これら既存施設を活かした活性化方策を検討していきたい。

○船形バイパスを早期実現させるためには、土地の買収等を防ぐなど、先手を打つ必要があるのでは。

⇒船形バイパスについて、現在は予備設計が終わっている段階。これは図上の計画で、しかし現地には杭が入ってない。延長は約 1400m、幅員 12m。明確なルートが県では決まっていない。用地の問題もあるがルートを明確にし、都市計画決定ができれば用地の担保ができることから、都市計画マスタープランで位置づけることを検討していきたい。いずれにしても、今後議論を重ね、整備の実現に向けていきたい。

○用途地域の変更について、港地区は準工業が主である。近隣商業もある。見直しするか。誘導する用途指定が必要。

⇒昭和 40 年代に現状追認で指定したものである。かれこれ 40 年経つ。今後の土地利用を考え、見直しをしていく。

○船形の“西”地区であるが、ドックサービスがある。ほとんどが準工業である。住民として問題だと思う。

○飛砂防止のネットについて、市で設置したネットがある。設置の時期が遅い 12 月だった。県のネットに穴がある。安全安心のまちづくりを進めるのであればしっかり対応して欲

しい。

○アンケート結果では「緊急医療体制」について不安を持っている市民が多く、1/13の新聞で、安房医師会病院の経営委譲先として亀田総合病院(鴨川市)などを経営する亀田グループが優先交渉権を得たとの報道があったが、どのような状況となっているのか？また市として緊急医療体制に関する方向性は？

⇒安房医師会病院の件については、新聞報道以外のことはまだわからない状況にある。

○雨水排水対策については、どう考えているのか？船形バイパスが完成するまで、消防団に頼るのか？大塚地区(志村美容室の前)は、管が溢れる状況にある。

⇒先日説明会を開いたが、排水の現状の断面では処理ができないことはわかっており、抜本的な解決には大きな構造物を設置しないと解決しないとの説明をした。

H20年度に1番悪い箇所(横断)の敷設替を行う。また堂の下の第2駐在所の付近以前は田んぼが保水していたが、埋立てが進み現在は、溢れる状況にある。

大塚地区については、20年度に横断管を敷設替、堂の下については20年度に調査をする。

○準工業地域を住居系にすると、この付近はデメリットが多いと思う。用途変更するのであれば、現況をよく調べてほしい。

○密集している地域なので、住居系にすると高さ制限が厳しくなる。建替え等が難しくなることもある。その際は、よく調査し説明して欲しい。